

広島市立大学・研究紹介展

～広島市とのさらなる連携強化～



[日時] 平成22年（2010年）11月29日（月）

[会場] 広島市役所本庁舎 2階 講堂

■ パネル展示など

12:00-16:30 …… 各学部・研究科、平和研究所によるプレゼンテーション

■ 特別講演

13:30-13:50 …… 広島市立大学長 浅田 尚紀

「公立大学法人広島市立大学の新たな挑戦」

■ 講演

13:50-14:10 …… 広島市立大学情報科学研究科教授 竹澤 寿幸
広島市立大学国際学部講師 岩田 一成

「日英中韓4カ国語の旅行対話音声翻訳実証実験
～外国人生活者への対応も視野に入れて～」

14:10-14:30 …… 広島市立大学芸術学部教授 大矢 英雄

「光の肖像展 in London 報告」

①広島市との連携事業紹介

市関連部署	事業名	概要	研究代表者（研究者）
企画総務局	透過移動通信およびデジタルサイネージや情報の見える化に関する研究 (環境局、市立広島工業高校、基町高校とも連携)	異なる IP ネットワークを通信しながら透過的に移動できるようなアーキテクチャ MAT と、電車やバスなどの移動体の中に設置した情報ディスプレイにリアルタイムの情報を表示するデジタルサイネージのデモを行います。また、広島市内に設置した環境センサや太陽光発電パネルから得られる情報を可視化するシステムの紹介を行います。	情報工学専攻 インターネット工学研究室 教授 前田 香織 准教授 井上 博之
市民局	市民の英語力向上のための研究と実践	平成 10 年に開発を開始した「ネットワーク型集中英語学習プログラム」は、広く広島市民にも開放され、市民の英語力向上に貢献しています。同プログラムを利用して平成 14 年より実施している「インテンシブ英語学習プログラム」、「社会人の学び直し英語 e ラーニング講座」、「市大英語 e ラーニング講座」の実施概要や成果について紹介します。	国際学部 教授 青木 信之 准教授 渡辺 智恵
	光の肖像展	本学芸術学部（油絵専攻）では、平成 16 年度から平成 20 年度まで、被爆者、被爆二世・三世の方々の肖像画（4 年間で 100 点）とそれぞれのプロフィール及びメッセージを、主に油絵教員と油絵専攻大学院修了生によって制作しました。平成 17 年度、平成 18 年度、平成 20 年度の 3 回、「光の肖像」展として本学芸術資料館で展覧会を開催するとともに、平成 20 年度には、はつかいち美術ギャラリー、平成 22 年度にはロンドンにおいて展覧会を開催し、高い評価を得ています。	芸術学部 美術学科 油絵専攻 教授 大矢 英雄 助教 松尾 真由美
健康福祉局	広島原爆きのこと雲写真からの高さ推定	広島への原爆投下によって発生したきのこと雲の高さについては、従来から様々な議論がなされてきましたが、現在までその高さを正確に推定することはできていませんでした。我々は、現存するきのこと雲の写真をその特徴により分類・解析し、その高さを写真から推定しました。その結果、きのこと雲は従来考えられていたよりもはるかに高くまで上昇していることが分かり、また、複数の写真からきのこと雲の成長の過程が確認されました。	知能工学専攻 コンピュータグラフィックス研究室、画像メディア工学研究室 学 長 浅田 尚紀 教 授 日浦 慎作 講 師 馬場 雅志 大学院生 小川 文夫(M2)
	-情報科学研究科ニーズ対応型自主プロジェクト演習採択課題- 情報科学の技術を活用した広島市の課題解決支援 より有効なバリアフリーマップの提案および、その支援システムの開発	健康福祉企画課と共同で、同課が現在ホームページ上で公開しているバリアフリーマップをさらに拡張した、新しいバリアフリーマップを紹介し、紹介するバリアフリーマップは利用者がより使いやすさだけでなく、バリアフリーマップを維持・管理する管理者に対する負担もより少ないシステムです。新しい機能の一部を PC 上のデモにて紹介します。	情報工学専攻 コンピュータデザイン研究室 准教授 市原 英行 大学院生 面林 康太(M1) 大学院生 福住 知晃(M1)
	-情報科学研究科ニーズ対応型自主プロジェクト演習採択課題- 情報科学の技術を活用した広島市の課題解決支援 広島市感染症情報センターからの効果的な情報発信について	衛生研究所生活科学部と共同で、広島市感染症情報センターからの情報をホームページ上でより効果的に発信するため取り組みを紹介し、同ホームページは利用者の使いやすさだけでなく、編集者の使いやすさも考慮しています。作成中のホームページの一部やホームページのバックアップシステムを PC 上のデモにて紹介します。	情報工学専攻 コンピュータデザイン研究室 准教授 市原 英行 大学院生 大岡 賢昂(M1) 大学院生 三上 雄大(M1)
経済局	銅蟲の商品開発に関する共同研究	広島に残る数少ない伝統的工芸品である銅蟲を後世に継承するため、広島市が平成 21 年度から設置している有識者委員会に若山教授が委員長として参加し、平成 22 年度から銅蟲のデザイン検討・技能伝承事業を広島市から受託しています。	芸術学部 デザイン工芸学科 教 授 若山 裕昭
都市活性化局	シャレオでの ichidai ichi (H22.9.1～11.28)	地下街シャレオに感性豊かな市大生が制作した作品の展示と販売を行うアート空間「ichidai ichi (いちだい いち)」をオープンしました。期間中には学生によるファッションショーや染織、漆、金工などの工芸作品やポスター等のグラフィックの展示・販売やアニメーションの上映を行いました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教 授 吉田 幸弘
	都市ギャラリープロジェクト (教育委員会とも連携)	「都市を丸ごとギャラリー化し、芸術空間にする」というコンセプトのもと、学生主導により、異なる知識・能力をもった多彩な集団を結びつけ、ポジティブな意欲をあおる芸術空間の創造と広島市の成長と発展への寄与を目指しています。	国際学部 准教授 金 泰旭
	湯来アーティストロッジ (H22.6.1～8.1)	豊かな自然と歴史ある温泉場のある湯来町を舞台に芸術学部の学生や教員による作品制作・展示ワークショップ等を通じ、地域と大学が連携し、若い芸術家の育成と地域の活性化を図りました。	芸術学部 美術学科 彫刻専攻 教 授 前川 義春 教 授 伊東 敏光

市関連部局	事業名	概要	研究代表者（研究者）
都市整備局	公園再生とコミュニティ形成に関する地域活動	「地域コミュニティ再生」の要件について調査しました。具体的には広島市で行われている地縁団体による町内活動や「公園再生事業」において、地域コミュニティが成長し、再生する諸要因を探りました。市内 49 の町を訪問し、地域の活動者に聞き取りをして、具体的な活動事例から地域コミュニティ再生・成長に関わる諸問題や成果を浮き彫りにしました。	国際学部 教授 中島 正博
	街区公園と指定管理者制度	広島市内の街区公園について指定管理者制度が実施されていますが、制度の普及はまだ限られています。住民団体がより利用しやすい制度に改善することが可能ではないでしょうか。それを探るために街区公園の指定管理者団体と街区公園清掃等報奨金交付団体を対象にアンケート調査を行いました。調査結果を基に政策提言を行います。	国際学部 教授 中島 正博
中区役所 西区役所	ネットワーク (IE) を活用したウォーキング支援システム (POSITIVE WALKER) の活用	ウォーキングを楽しんでいる人から、エクスプローラ経由で送られた歩数のデータに対して、ほめたり、励ましたりするメッセージを自動的に送信し、ウォーキングのやる気をおこさせるウォーキング支援システムをオムロンヘルスケアと共同で開発、システムの運用を 2009 年から始めています。2010 年 9 月から、車を使わずに歩いたと仮定した場合、どれくらいの「CO2 を削減しているか」を、グラフ表示する機能をウォーキング支援システムに付け加えています。	国際学部 准教授 山口 光明
安佐南区役所	安佐南区役所との地域連携協力協定書締結 あさみなみ芸術化構想 2010	「あさみなみ・まちの顔づくり事業」を展開している安佐南区役所と 2010 年 9 月 27 日、地域連携協定書を締結しました。広島市立大学社会連携プロジェクト研究「あさみなみ芸術化構想 2010」の一環として、また安佐南区役所との協働事業として、区役所屋内に 3 点、野外に 2 点の彫刻及び工芸作品を設置し、訪れる市民に芸術のある創造的な環境を提供するとともに、パブリックアートについて考える実践的教育・研究の場とする試みを行いました。こうした活動を通じ、地域の芸術化の推進と独創的で活力のある地域環境の創造を目指しています。	芸術学部 美術学科 教授 彫刻専攻 前川 義春
消防局 (安佐北消防署)	安否確認のための非常連絡情報システム	災害時に避難者が携帯電話などを利用できないとき、携帯電話などを利用できる他の避難者が連絡先を登録すると、家族などが検索できるシステムです。安佐北消防署と連携し、防災訓練などの参加者にシステムを試用してもらい、実用上の課題を見つけ、システムの改良に取り組んでいます。	システム工学専攻 サービス指向ソフトウェア 准教授 島 和之
教育委員会	Android を用いた新世代児童見守りシステムの構築に向けて (企画総務局とも連携)	2007 年 9 月～12 月に広島市で実施した児童見守りシステムモデル事業で得られた知見に基づき、現在、Android の通信機能を活用した新世代児童見守りシステムを構築中です。登下校する児童のグループをリアルタイムに把握できる特長があります。当日は、Android 端末で構成するグループ情報を表示するデモ等をご覧いただく予定です。	情報工学専攻 ネットワークソフトウェア 研究室 教授 角田 良明 准教授 大田 知行 助 教 井上 伸二 助 教 河野 英太郎 特任助教 小島 英春 大学院生 森 雄一郎(M1)
	ひろしまコンピュータサイエンス塾 ～情報科学ってスゴイ!!～ (JST 未来の科学者養成講座 事業紹介)	昨年度より独立行政法人科学技術振興機構 (JST) の補助を受け、小学 3～6 年生とその保護者を対象とした講座「ひろしまコンピュータサイエンス塾」を開講しています。数学や理科をはじめ様々な学問分野が結びついて構成される「情報科学」を、講義、実験・実習など、大学で年間を通じて体験的に学び、将来、この分野で活躍する科学者の卵を育成する取組を紹介しします。	情報科学研究科 教授 佐野 学 教授 井上 智生 教授 弘中 哲夫 准教授 高橋 賢 准教授 寺内 衛 助 教 厚海 慶太(代表) 助 教 川本 佳代 特任助教 澤村 博彦
	高大連携講座	教育委員会との共催で高大連携講座を開催しています、 【情報科学分野】 講座名：組込み TCP/IP 通信入門 参加者：広島市立広島工業高等学校生徒 場 所：広島市立工業高等学校 【芸術学部】 講座名：銅版画の基礎 参加者：市立基町高等学校創造表現コース生徒 場 所：広島市立大学芸術学部	情報工学専攻 インターネット工学研究室 准教授 井上 博之 芸術学部 教授 友安 一成
全市関係局	シンボルマーク及び公共デザイン制作	芸術学部では各種イベント等のロゴやマスコットキャラクターのデザインの制作や公共デザインへの協力を行っています。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 及川 久男

②地域貢献・市民対象事業紹介

テーマ	概要	研究代表者（研究者）
市民を対象とした公開講座	本学は、教育・研究の場としてだけでなく、身近な生涯学習機関として、各学部の特徴を生かし、幅広い層を対象とした公開講座を実施しています。	全学部
学生による社会貢献型自主プロジェクト	学生の自主的に実施する社会貢献プロジェクトを支援するため、それらの活動に対し補助金を交付しています。今年度の採択プロジェクトを紹介します。	全学部
地域日本語教室への日本語支援	国際学部では、日本語・日本語教育ゼミの学生を中心に、沼田公民館で毎週土曜日に行われる日本語教室（沼田日本語教室）に参加しています。参加学生は、平均約週1人で、メンバーは固定せず、様々な学生が関わっています。合わせて、沼田日本語教室が関わる各種イベントにも参加し、これまで、アジアフードの模擬店出展、子供会と共同でのタイ料理教室の開催、アメリカ人ミュージシャンによる演奏会に参加しています。	国際学部 講師 岩田 一成
スマートフォンでしゃべって翻訳 日英中韓 4カ国語の音声翻訳実証実験	外国人が快適に観光できる ICT 先端都市を目指し、日英中韓 4カ国語を対象とする音声の自動翻訳システムを用いた実証実験を、シヤレオの「ichidai ichi」に隣接する店舗を拠点として 11 月に実施します。 この機能が動作するスマートフォンを 50 台準備し、約 40 台を平和記念公園や本通での実証実験に利用し、残りの約 10 台は本学に在籍中の中国と韓国からの留学生が観光旅行者と生活者の違いを調査するために利用します。	知能工学専攻 言語音声メディア工学研究室 教授 竹澤 寿幸 准教授 難波 英嗣 助教 黒澤 義明 助教 目良 和也 国際学部 講師 岩田 一成 事務局教務学生室 学生支援職員 小柳 昌生
己斐小学校での被爆モニュメント設置	原爆投下直後に臨時救護所となり、2000 人余りが茶毘に付されたとされる広島市立己斐小学校（当時己斐国民学校）の犠牲者を悼むモニュメントのデザインを若山教授が行い、芸術学部教授陣及び学生等がその制作に携わりました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 若山 裕昭
広島アートプロジェクト 2007-2010	広島アートプロジェクトは、平成 18 年度から研究活動を始め、展覧会・ワークショップ・講演会・イベントの実施などを通して、遊休施設（旧中工場、旧日本銀行広島支店）のアートによる再利用の提案、国際交流を含む、現代美術を中心とした文化芸術の振興に関する事業、広島市の歴史に関する教育普及活動、都市空間のデザインに関する事業を行い、文化芸術の振興、国際平和の実現、および共生社会の推進に寄与することを目的としています。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 大井 健次 教授 鯉澤 達夫 准教授 柳 幸典 准教授 加治屋 健司
大塚かぐや姫プロジェクト 2010	「大塚かぐや姫プロジェクト」は安佐南区大塚寺谷・中東地区の竹林を舞台として、地域と大学が連携し、芸術活動を通じた地域研究・創造を行うものであり、平成 18 年度から毎年開催されている。平成 22 年度は広島市立大学社会連携プロジェクト研究及び広島市森づくり推進事業として大塚・伴南学区社会福祉協議会、都市整備局西風新都整備部の協力を得て行われました。	芸術学部 美術学科 彫刻専攻 教授 前川 義春
児童犯罪危険回避システム	2005 年、広島市安芸区で起こった小学 1 年生殺害事件をきっかけに、児童を守るための取り組みが全国的に広がりました。こうしたことを踏まえ、犯罪社会学の立正大学小宮教授の協力を得て、CG や VR 技術を応用した鉄道模型による地域の児童犯罪に対する危機回避シミュレーションシステムを開発しました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 中嶋 健明
大学・学生・地域の連携による トラック&フィールド芝生化の試み	学生団体が中心になり、学生・教職員からの寄付をもとに地域団体と連携し、トラック&フィールドの芝生化に挑戦しました。低コストで維持管理が可能な「鳥取方式」（一部「豊平方式」）の試みを紹介します。	国際学部 准教授 曾根 幹子

③研究教育紹介

国際学部・研究科

No.	テーマ	概要	研究者
①	国際学部教員による書籍、叢書、紀要の展示	国際学部教員による近著（単著、共著）、学部叢書、そして学部紀要を展示し、学部教員の研究成果を紹介します。	国際学部教員
②	大学間連携の英語プレゼンテーションイベント	所属の学会を通じて大学英語教員者に呼びかけ、昨年からは開始したイベントで、OPP イベント（Oral presentation & performance）と称しています。競争を目的とするものではなく、日ごろの教育成果を披露し、英語教師、学生それぞれの立場で学び合うことを目的としています。教師側にとっては英語によるオーラルコミュニケーションやプレゼンの能力を高めるための指導技能を向上させること、参加学生にとっては英語使用に対する意識と運用能力を高め、英語使用の楽しさを体感してもらうことです。展示では、今年のイベントの様子をビデオと報告書で紹介しています。	国際学部 教授 岩井 千秋

情報科学部・研究科

No.	テーマ	概要	研究者
①	複数機関での情報共有の高機密化に関する研究紹介	機関(部局)がそれぞれ管理している情報を複数の関係機関(部局)にまたがり共有することで、迅速かつ的確に利用価値の高い情報を抽出したり、新しい知識を発見することが可能になります。一方、機密性の高い情報に対しては共有において特段の配慮が必要となります。本発表では、複数機関(部局)での情報共有において高い機密性を提供するための基盤技術を紹介しします。	情報工学専攻 論理回路システム研究室 教授 若林 真一 講師 上土井 陽子
②	手軽に目的に合わせた回路を実現できる再構成可能デバイスの研究紹介	本研究室では LSI 製造後に機能を変更できる再構成可能デバイス(LSI)の研究開発を行っています。再構成デバイスはカメレオンのように様々な回路に変化することができるものです。そのような再構成可能デバイスを使うことで、専用回路を作る工場を持っていない会社や自宅などでも自分自身の目的に沿った専用回路を作れるようになります。	情報工学専攻 コンピュータアーキテクチャ研究室 教授 弘中 哲夫 助教 谷川 一哉 大学院生 浅枝 昌則(M2)
③	速度や走行環境等の制限なく安全性を確保できるコンピュータの研究	自動車に搭載されたコンピュータによって走行中に人物や物体を識別する画像認識処理によって、安全運転を支援することが盛んになってきています。しかし現在、自動車に搭載されているコンピュータは処理能力が低く、時速 30km 以下や乾いた塗装道路等、使える環境が制限されています。そこで、速度や走行環境等の制限なく画像認識処理を実現できるコンピュータの研究の展示を行います。	情報工学専攻 コンピュータアーキテクチャ研究室 教授 弘中 哲夫 助教 谷川 一哉 大学院生 梅田 賢一(M2)
④	超高速衛星回線を有効利用する基盤技術の研究開発	衛星インターネットにおいて、従来の通信制御技術を用いると、衛星回線の特性のため回線帯域を十分利用することができず、高速通信が困難です。この傾向は衛星回線が高速になるほど顕著になります。本展示では、超高速衛星回線を用いる衛星インターネットにおいても、高速通信が可能な新たな通信制御技術を紹介しします。	情報工学専攻 情報ネットワーク研究室 教授 石田 賢治 准教授 高野 知佐 准教授 舟阪 淳一 講師 小畑 博靖
⑤	階層的クラスタリングを用いた台風被害予測モデル	台風被害予測モデルを構築する方法を提案しします。デジタル台風の Web サイトで提供されている総合データベースの中から、台風データベースと被害データベースを用いた台風被害予測モデルは、台風データベースと被害データベースのそれぞれを分類し、両者の分類結果を統合することにより構築されています。	知能工学専攻 データ工学研究室 教授 北上 始 准教授 黒木 進 講師 田村 慶一 助教 森 康真 大学院生 中村 翔(M1)
⑥	障害者のための支援システム開発 ～発声機能障害者、視覚障害者のために～	発声機能障害者のための体の中を伝わる音を利用した支援システムと、視覚障害者が音で Windows のようなグラフィカルなインタフェースを楽しんで使える支援システムの紹介を行います。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 大学院生 福井 和敏(D1) 大学院生 菅 秀裕(M2) 大学院生 名越 隼人(M1)
⑦	アクティブノイズコントロールによる騒音対策	低周波数の音の対策は吸音材や制震材では対処できません。そこで低周波領域に有効な音で音を消すアクティブノイズコントロールとその適用について紹介しします。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 大学院生 浜田 浩二(M1) 学部生 上鹿庭 健浩(B4)
⑧	サウンドデザインとその評価	自動車を初めとする様々な製品は静けさだけではなく、音環境としての快適さが追求されるようになってきました。自動車加速音、ボタン押し音、ゴルフショット音、オーディオ機器などのサウンドデザインとその評価手法について紹介しします。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 大学院生 藤ノ木 健介(D1) 大学院生 尾茂井 宏(M2) 大学院生 平岡 大司(M2)
⑨	ロボティクス研究室の紹介	ロボットをインターネット上の既存メディア(テキスト・音声・画像・映像)と同様なメディア; モーションメディアであると提唱しています。このモーションメディアのインターネット流通方式・デザイン手法・評価に関する研究を行い、近未来のホームロボットに応用しています。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 助教 高井 博之
⑩	多孔質シリコンからの発光現象	フッ酸溶液中に置いたシリコン基板に電流を流すことで、作製される多孔質シリコンには発光特性があります。電流密度やフッ酸濃度などの作製条件を変えることによって発光波長や強度の特性が変わります。これまで行った作製方法と励起光源を使用した発光特性の変化について紹介しします。	創造科学専攻 情報物性工学研究室 准教授 田中 公一 講師 藤原 真 准教授 八方 直久
⑪	産業用カメラを利用した高速画像記録装置の構築	産業用高速カメラの画像(200コマ/秒以上)を、パーソナルコンピュータを利用して長時間(60分以上)連続記録する方法について発表しします。また、構築した装置を人間の運動解析に応用した事例も発表しします。この装置は安価(100万円未満)に構築でき、一般の高速撮影は勿論、特に「長時間に亘って不定期的に生ずる高速現象の記録・解析」に適していると考えています。	創造科学専攻 光システム計測研究室 准教授 藤原 久志

No.	テーマ	概要	研究者
⑫	アシュアランスネットワーク技術の基本概念と統一的な設計法	新世代ネットワークはインターネットの次の世代を見越した新しい設計思想・技術によるネットワークです。新世代ネットワークにおいて高品質なサービスアプリケーションをリアルタイムに提供するためには、アシュアランスネットワーク技術が不可欠です。当日は、アシュアランスネットワークの基本概念および統一的な設計法について説明します。	NICT委託研究「アシュアランスネットワーク技術の基本概念と実証」研究グループ 教授 角田 良明 教授 石田 賢治 准教授 舟阪 淳一 准教授 大田 知行 講師 小畑 博靖 助教 井上 伸二 助教 河野 英太郎 特任助教 小田 亮太郎
⑬	情報科学部共同研究プロジェクト 「地上デジタル放送有効活用のための情報通信技術」	本研究では、デジタル化が進められている地上テレビ放送波を有効に活用することを目指し、関連する情報通信技術の検討を行っています。具体的には、難視聴地域の課題解決のためのテレビ放送波測定や受信品質調査、および新しいアプリケーションの創出としてテレビ放送波を用いたヒト検知システムの研究開発を進めています。	情報工学専攻 環境メディア研究室 教授 吉田 彰顕 准教授 西 正博 助教 新 浩一 システム工学専攻 通信・信号処理研究室 教授 生岩 量久 講師 神尾 武司 情報工学専攻 インターネット工学研究室 教授 前田 香織 准教授 井上 博之
⑭	情報医工学プログラム	広島大学、広島工業大学、広島市立大学の3大学の連携により平成21年8月からスタートした、「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材戦略（情報医工学プログラム）」について、プロジェクトの概要とこれまでの取り組みについて紹介します。	情報科学研究科 知能工学専攻 准教授 青山 正人 情報医工学プログラム 特任助教 小島 英春 特任助教 正岡 元

芸術学部・研究科

No.	テーマ	概要	研究者
①	産学連携事業「art room プロジェクト」	「art room プロジェクト」は、産学連携の一つとして、株式会社ワールドが提案する「アパレル小売事業店頭におけるアクチュアル・ヴィジュアル・プレゼンテーション」の一環で、各都市の大学とのコラボレーションによる事業である。このプロジェクトの実践として、芸術学部現代表現領域が「イオンモール広島府中ソレイユ」にある大型店舗「FLAXUS」のディスプレイ展示を展開しています。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 巖澤 達夫 准教授 柳 幸典
②	キッズキャンパス 2010	広島日野自動車株式会社の寄付講座として、平成15年からスタートした、広島市の幼児・児童を対象にした美術講座です。子どもたちの創造性の育成と、彼らを取りまく環境をより良いものにすることを目標としながら、芸術学部の教員と学生が指導にあたります。6年目になる今年は、「あそび」をテーマに、絵画、立体、映像、鑑賞プログラムを開催しました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 中嶋 健明 教授 吉田 幸弘 美術学科 油絵専攻 助教 松尾 真由美（代表）

社会連携センター

No.	テーマ	概要	研究者
①	全アミノ酸同時計測用バイオチップの開発 —血中アミノ酸濃度を指標とする病態計測装置の開発—	当室では、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センターより受託研究費を受けて、生体を構成する成分である20種類のアミノ酸濃度を「その場」において特殊な技術を必要とせずに迅速かつ簡便、安価に計測することができる装置および方法を開発することを目的として研究を行っています。本研究が完成することにより、医療分野では複数の病態の一括診断、食品分野では鮮度や味の計測への応用が可能です。	プロジェクト研究推進室 准教授 釘宮 章光
②	低炭素社会の実現を目指した水素エネルギーの研究開発	「水素エネルギー利用開発研究会」を、広島大学（先端機能物質開発センター）、中国経済産業局とともに共同主催し、広島地域の産官学組織が集まって水素エネルギー社会構築を目指し、啓発・基礎及び応用研究等様々な活動・情報交換を行っています。	プロジェクト研究推進室 特任研究員 藤井 博信

平和研究所

No.	テーマ	概要	研究者
①	平和研究所の取組の紹介	平和研究所は、核兵器や被ばくに関する問題、北朝鮮や東南アジアなどの地域研究、戦争犯罪問題など、幅広く平和を阻害する要因について研究を行っています。 講演会や勉強会での講師、附属機関等の委員就任など、広島市の行政課題解決に向け、積極的に貢献します。	平和研究所教員
②	「ひろしま平和貢献ネットワーク協議会」によるカンボジア支援活動	広島の自治体や大学で構成する「ひろしま平和貢献ネットワーク協議会」が2005年度から、国際協力機構(JICA)の助成でカンボジア支援活動を行っています。2005年度からはシエムリアップ州の小学校で3カ年、教育・保健活動を行いました。2008年度からは3カ年、タケオ州小学校教員養成校で理数科の支援を行っています。2009年度からは、広島大学歯学部や医学部保健学科、広島市内の医師、歯科医師などの協力で、シエムリアップ州での保健医療活動も行っています。	教授 水本 和実
③	ドイツの平和思想と平和運動	19世紀末から20世紀末にかけてのドイツの平和思想と平和運動に関する研究を行っています。「戦争の世紀」とも呼ばれる20世紀におけるドイツの平和思想の変遷は、「平和」の歴史を考えるために大きな意味を持っています。	講師 竹本 真希子

社会連携センターの活動紹介

No.	テーマ	概要
①	社会連携センターの紹介	社会連携センターの役割・機能・組織について紹介します。
②	社会連携プロジェクト研究の紹介	社会連携プロジェクト研究(特定研究)として採択した事業(一覧)を紹介します。
③	広島市等の審議会委員等就任状況	広島市等の審議会委員等就任状況を紹介します。

公立大学法人 広島市立大学社会連携センター

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

電話/FAX : 082-830-1545

Email : 産学連携 sangaku@office.hiroshima-cu.ac.jp

地域連携 chiiki@office.hiroshima-cu.ac.jp

ホームページ : <http://www.renkei.hiroshima-cu.ac.jp/>
